バル・ピパル学校校舎（2 教室）再建のご報告書

NPO 法人バル・ピパル奨学基金の学校再建活動にご賛同下さったお 2 組のご支援者様のお力で、今年 8 月に新たに 1 棟（2 教室）の校舎を再建することができました。このたび、建設完成までのご報告をさせて頂きます。ご寄付者様には、この場を借りて改めてお礼を申し上げます。誠に有難うありがとうございました。

1） 2 教室の再建までの経緯

バル・ピパル奨学基金は、2001 年に日本の方々のご協力により、ダディン郡サッレ村にバル・ピパル学校の設立を支援、10 年かけて幼稚園児と 1～10 年生の教室、図書館を増やし、教科書・文具品支援、給食の実施、教師の給料支援などを行ってきました。

しかし 2015 年 4 月 25 日発生のネパール地震により、震源地に近いダディン郡でも多くの家屋が全半壊の被害に遭い、校舎も 17 教室（7 棟）のうち 15 教室（6 棟）が全半壊しました。当時、全校生徒は 250 名ほどおり、地震後は仮設教室で学ぶことになりました。しかし、雨風で仮設教室は傷み易く早急な再建が望まれます。再建が必要な 15 教室のうち 4 教室は国の支援を期待し、残り 11 教室を独自に建設したいと考えました。

2016 年 1 月にクラウドファンディング（インターネット募金）でご寄付を募る活動を始め、沢山の方々にご支援を頂き、壁面に鉄筋コンクリートの梁を入れた校舎 1 棟（1 教室）を再建することができました。また、その後も複数の新聞社様のご協力で活動記事を紹介して頂き、さらに多くの方々のご支援が広がりました。

そのような中で、新聞記事を読まれた神奈川県相模原市の歯科医師の奥村寛道氏と同県内の女性から、個別に教室再建資金のご援助のお話を頂き、今年 1 月に 1 棟（2 教室）の校舎再建の費用として合計 250 万をご寄付頂きました。

2） 校舎の設計

この校舎の再建は今年 4 月から始まりました。当初の見積りでは、ドア・窓・床を再利用して、崩れた壁を再建すれば、60 万円で再建できると計画していました。また設計は前回の再建校舎と同じ方式にして、カトマンズのトリブヴァン大学工学部の学生・卒業生達からなる団体「Aashraya（アシュラヤ）」に依頼する予定でした。

しかし、再建について国から一律条件が定められ、前回と同じ計画で進めることが不可能となりました。国の条件に適合しないと建築許可が出ません。国の復興事業については日本の JICA（国際協力機構）も支援しており、「ただ震災前の状態に戻すのではなく、震災前よりも強い復興」という方針に基づいた耐震基準と規格モデルを提案しています。国としては将来の地震に対応して、その規格モデルを採用し、下記の条件を定めました。

① 規格の広さ約 42 ㎡の 1 階建て教室の場合、建設費用 100 万ルピー（約 120 万円）が必要
② 加えて、その 5%の金額が建設認可料と役所から派遣される技術者の指導料として支払うこと
（但し、本件は 2%になりました）

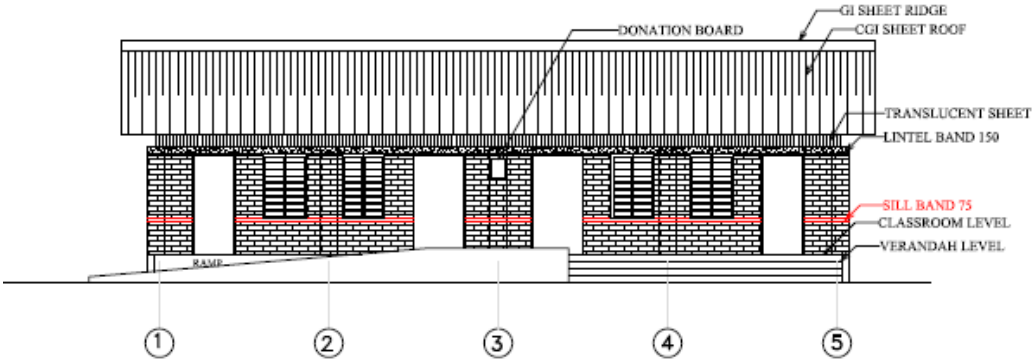
条件に従うことにより、見積額が 2 教室で 250 万円必要となりました。

国の指導する規格モデルは複数あります。今回再建した規格は、1 階建て校舎で 2 つの教室があり、それぞれに出入口が 2 ヶ所、窓が 6 ヶ所あります。出入口と窓の位置はやや異なりますが、地震で倒壊を免れた JICA 支援の 2 教室の校舎と同じタイプです。その校舎の隣に再建校舎を建てました。地震への強度を考慮して基礎を鉄筋コンクリートで作り、外壁 2 ヶ所を鉄筋コンクリートの梁で結びました。壁は現地で調達できる石を使用し、壊れた校舎の廃材も利用しました。トタン屋根は 10 本の鉄骨とトラス（結構）で支えています。1 教室で生徒 50 名までが学べます。

校舎の平面図・断面図・外観

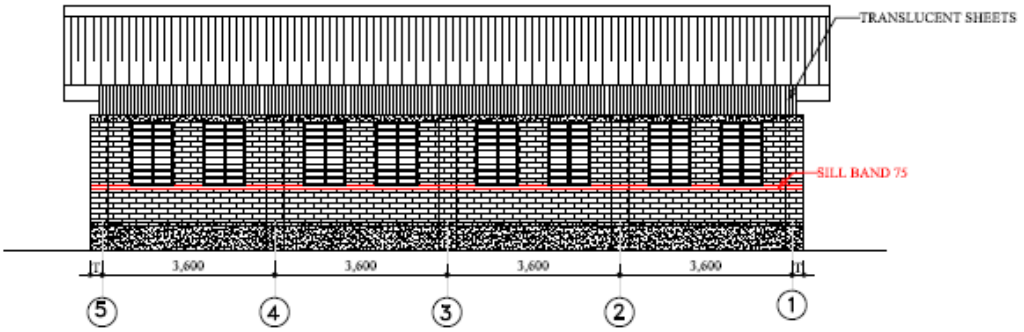
（ネパール教育省による設計図より）

注）出入口と窓の位置は、実際に建てた校舎と少し異なります

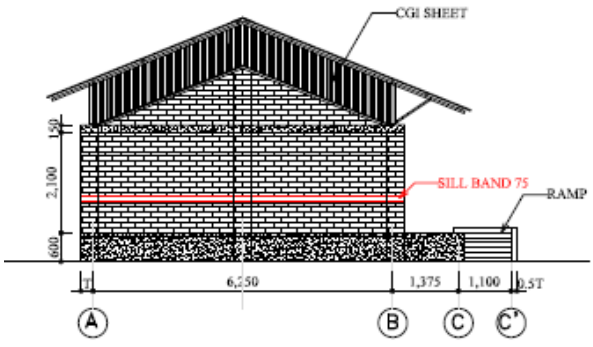


FRONT ELEVATION

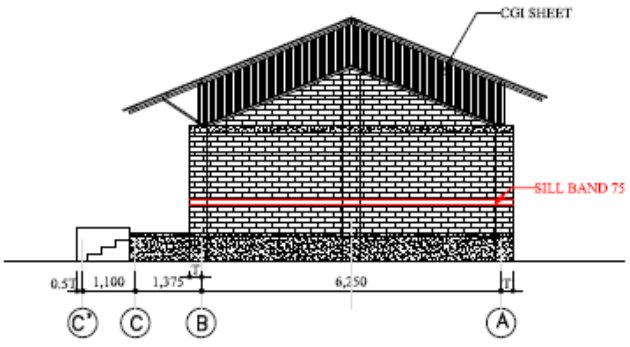
正面



BACK ELEVATION

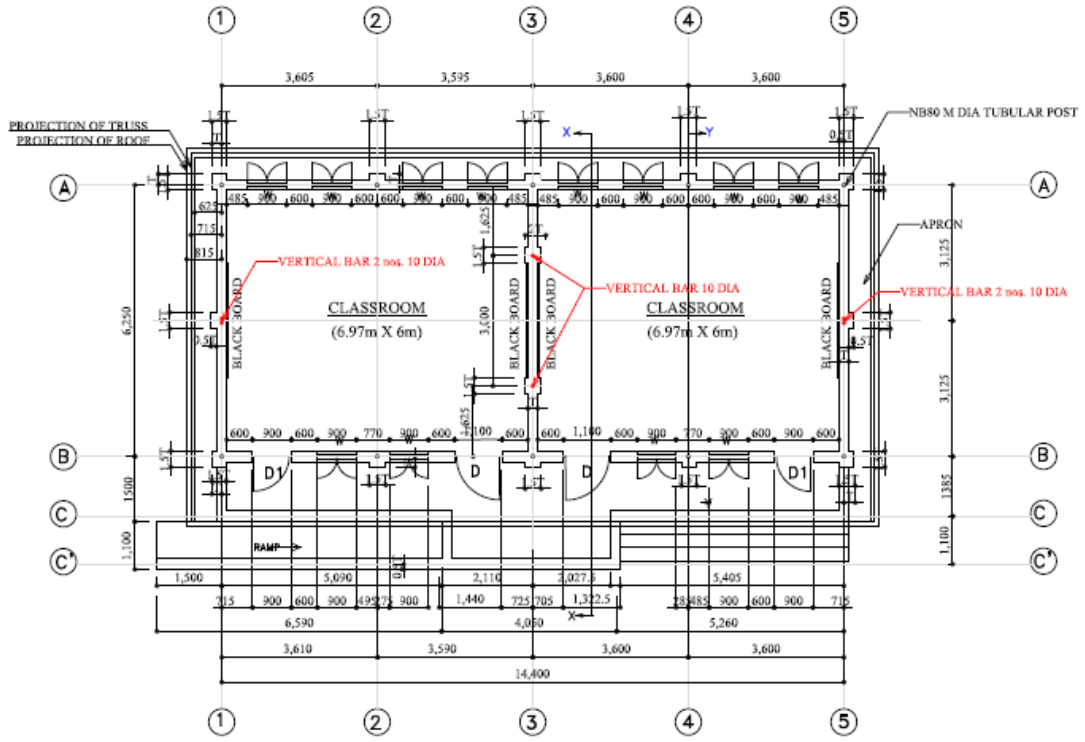


SIDE ELEVATION



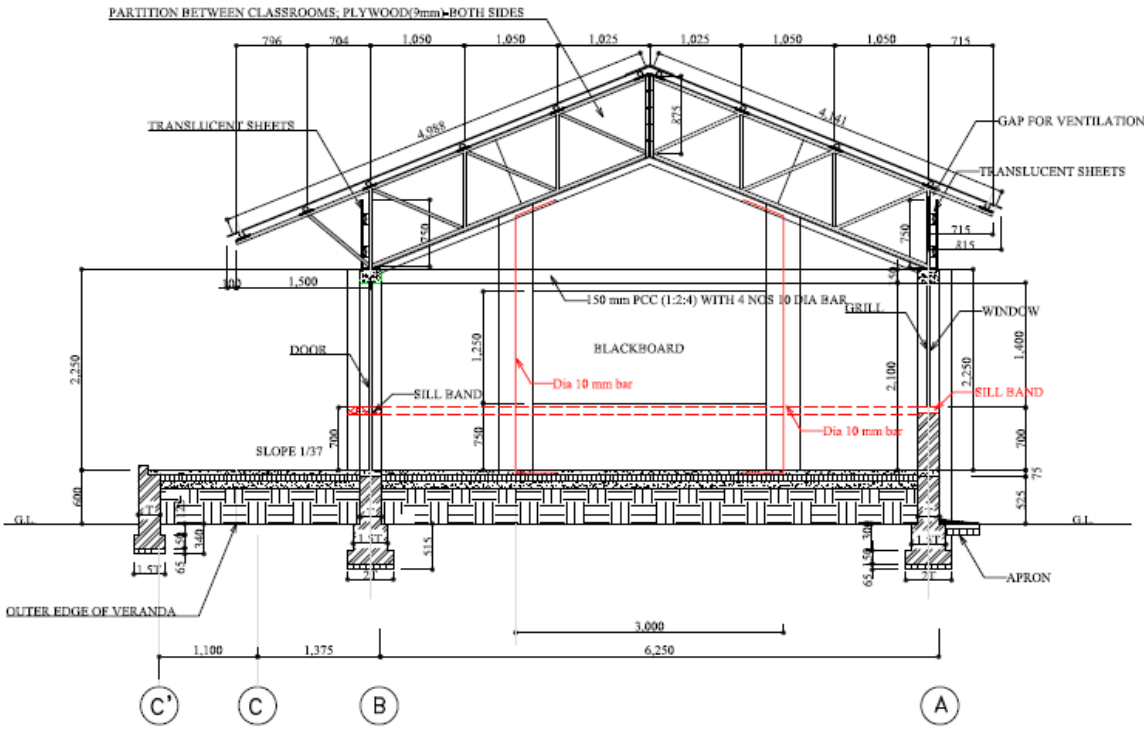
SIDE ELEVATION

上が背面　　下の 2 つが側面



PLAN

平面図



SECTION AT X–X

断面図

3） 校舎の建設

建設は、2017 年 3 月～9 月に行いました。雨期のため、6 月下旬～8 月中旬は作業を中断し、8 月下旬に室内の壁のプラスターなどを仕上げました。砂、砂利、鉄筋、セメント、木材、釘、トタン、塗料などの材料費、大工への作業費用、技術者への指導料などがご寄付額から支出されました。

（下記の表・校舎再建費用明細をご参照下さい）

ご寄付金額の合計	**2,500,000円**
→ ネパール・ルピー ※	2,313,000Rs

※日本から米ドル建で送金後、ネパールでルピー建に受取った換算手数料が差引かれた金額です

校舎再建費用明細

	項目	ネパールルピー
1	地面を平らにする作業	45,200
2	基礎を掘る作業	18,722
3	地面を埋める作業	18,805
4	丸石の汚れを落とす作業	42,275
5	煉瓦・石の作業	705,788
6	半煉瓦・石の作業	32,725
7	コンクリート作業（ポルトランドセメントコンクリート） ※1	93,960
8	鉄筋コンクリートのためのポルトランドセメントコンクリート ※1	42,105
9	ポルトランドセメントコンクリートの基礎工事 ※1	36,660
10	鉄筋	43,540
11	基礎、鴨居の形づくり	14,950
12	ドアと窓のメタルフレーム	90,420
13	ドアと窓のシャッター	152,175
14	シャッターの塗装	13,740
15	屋根トラス	281,750
16	煉瓦・石の組積作業	46,325
17	セメントプラスター	76,610
18	コンクリ床とセメント仕上げ	114,500
19	壁すそのセメント仕上げ	8,000
20	塗装	19,615
21	トタン屋根	181,250
22	トタン棟	11,980
23	窓の鉄格子	38,475
24	技術指導料	40,000
25	予備費	9,600
26	電話代など	1,500
支出合計 （ネパール・ルピー）		**2,180,670**

残　　高 (ネパール・ルピー）	**132,330**

※1 ポルトランドセメント ・・・ モルタルやコンクリートの原料として使用されるセメントの種類の一つ
最も一般的なセメント

校舎の工事と完成までの様子

左の建物は地震を免れた JICA 支援の校舎（ドアと窓の位置以外は、今回と同じ規格モデル）

3）竣工式と除幕式

2017 年 8 月 24 日、ティージというヒンドゥー教の祭りに合わせて竣工式とご寄付のお 2 組に感謝して作製された銘鈑の除幕式を行いました。ティージは、女性の祭りです。この日、女性達は日中に断食をし、未婚女性は良い配偶者との幸せな結婚を、既婚女性は家族の健康と長寿を願います。そして赤い民族衣装を着て、いつも以上にお洒落をします。

式典では、生徒、保護者、村人、行政教育委員などが集まり、選ばれた 4 名（男女 2 名ずつ）がテープカット、そして黄色い覆い布を外して銘板の除幕式を行いました。

校舎の外壁はクリーム色に塗装されて、明るくなりました。ひとつ残念なことは、教室内部の塗装はこの日に間に合いませんでした。雨期の激しい雨で道路が崩れ、追加塗料の運搬ができなかったのです。この時期はティージの祭り以外にも、ネパール最大の祭りダサインがあるため、2017 年の 9 月は学校が長期休暇中です。休暇明けの 10 月に新しい教室で学ぶ学生達の姿とともに、内部を塗装した写真も後日お届けしたいと思います。

この祭りの日に竣工式を迎え、村人や学生達の喜びは 2 倍になりました。このたびのご支援により、学生達は再建した教室で、落ち着いて、また新たな気持ちで授業を受けることができます。本当にありがとうございました。

完成した校舎と竣工式の様子

SHREE BAR PEEPAL SECONDARY SCHOOL
NEELKANTHA-11, SALLE, DHADING
Supported By
KANDO

SHREE BAR PEEPAL SECONDARY SCHOOL
NEELKANTHA-11, SALLE, DHADING
Supported By
YASUHIKO AND MIYO

内部の塗装も完成しました（2017 年 10 月撮影）

教室内の壁の塗装も終わりました。

校舎は 2 教室に分かれていますが、現在、教室が不足しているため、向かって左側の教室の方はトタンで 2 つに仕切って、8 年生と 9 年生の教室として使用し、3 教室になっています。

向かって右側の教室は、10 年生が使用しています。

校舎の裏側に窓は全部で 8 つあります。

8 年生と 9 年生の教室は、校舎内の左側の教室をトタンで 2 つに仕切って使用しています。

8 年生の教室の授業風景

9 年生の教室の授業風景

9 年生の教室の授業風景

（校舎内で真ん中の教室にあたります）

10 年生の教室の授業風景（校舎内の右側の教室）

2017 年 10 月

特定非営利活動法人バル・ピパル奨学基金